

刊夕日一十月十



定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 廣告料 五圓以上 二五圓以下 一行五圓 五圓以上 一行五圓
 日曜 祭日の 翌日 休刊
 発行所 常磐宮日新聞社 東京 常磐宮日新聞社
 印刷所 常磐宮日新聞社 東京 常磐宮日新聞社

惨害の都より (下)

大阪外語在學 中村浩

この小學校でも數多の死者を出しました。近くのブール、女學校(ミッジョンスクール)でも同じ運命に合いました。こゝは三十數人近くの死者を出してゐます。一々あげないともなない程にこの様な、或はこれ以上の悲惨な光景が展開されたのでした。朝家を出るときには元氣で出た子供を再び見るときはむじむじとした姿になつて再び歸つてくることを誰が豫期し得ませうか?
 親の心こそ如何ばかりかと思ふも涙です。一週間程はあの光景が、忘れられず

ノート

頃迄の赤ン坊は首骨が据らぬ抱き方がわるくてグラグラ動かすと頭に故障を起す原因となる

食事もろくに通りませんでした。これは風害にのみよる犠牲です。港區は高潮津浪で倒れた上を浪でながされたのですから、更に悲惨です。堺市の方は更にひどいのです。この邊はこの津浪による死者ばかりです。

この度の災害を通じて色々深く考へさせられました。運命のさげがたきこと(總てを運命とあきらめるより致しかたない)、思はれま

明日の立献

【朝】 味噌汁 小付 ぶら豆
 【晝】 鹽焼 さんま 大根おろし
 【晚】 鮮南ばんむし 酢味噌 豚肉 ささげ

していろいろと御知らせ致したいことはありますが、とても書きつくせません。平町でも義捐金募集との事何か知ら自分が感謝致したい気分です。今日も心なき雨が降つております。家を奪はれ兄弟をうばはれた幾多の人が今尚この雨の中にくるしんでゐることです。

俳句

浮雲を仰ぐ前をば赤とんぼ 夕空に望みは高し赤とんぼ
 浮雲を仰ぐ前をば赤とんぼ 夕空に望みは高し赤とんぼ
 浮雲を仰ぐ前をば赤とんぼ 夕空に望みは高し赤とんぼ

汽車過ぎし里静かなり秋の夜
 わが庭のコスモスの花見ゆ月明り
 茸狩り山勝がなり水の音 茸狩り落葉かく手にさりとす
 もみぢ葉を散す小鳥や朝寒み
 小春日の縁に集る蠅靜か 百舌鳴きて枯葉一度に散りけり
 口すく柄杓の重み薄氷り
 黄昏
 初秋や桐の葉がくれ星一つ
 秋風の吹くがまに〜尾花かな
 秋深み野は黄昏のすゞきかな
 裏畑の熟せし柿に夕日映ゆ
 銀杏
 おきな見の銀杏拾ふ夕かな
 朝やけや杉の梢のもづの聲
 からす鳴く夕やけ空に野火遠し
 秋から冬へ
 落ちてなほ人にふまれる木の葉かな
 秋晴れやひとときは目立つ紅葉かな
 逃げまどふ鳴子の下の雀かな

秋と冬の
 中折ボーン
 優良國産品
 特選ウール帽 ¥2.00
 フワ帽 ¥5.50
 セラフイック帽 ¥6.00
 スマートな型と色……
 御年配若人向……
 好適品豊富に取揃へ
 ツルヤ
 電一四〇

新築 落成移轉
 承らく御不自由相掛け申し上げて居りましたが此度漸く落成移轉致しました。何卒倍舊の御引立の程御願申上げます。尚新舗二階の客間は御會食御家族同伴等江戸前式に設備致しました何卒御利用下さい。
 平三(舊店舖跡)
 玉壽司
 電五七五番

貸切の御用命は
 せひ・三井自動車部へ!!!
 電話六八五番
 ◎乗合は好間、合戸、澤渡方面行

石炭 一俵廿二錢ヨリ
 多少に拘らず御用命下さい、直ちに配達致します。
 平町十五丁目 電四六番
 エビスヤ燃料店
 東洋火災保險株式會社平中央代理店

看護婦急派
 の求めに應じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

貴方の御家庭に
 お手不足は御座いませんか
 本會を御利用下さい
 直に家政婦を派出します
 親切 料金は極めて低廉で
 妊産婦の御家庭 お留守 居番
 御病人の付添 炊事や 雜用 年寄やお子さんの付添
 派出多忙に付會員至急募集
 平町紺屋町二(電話二二番)
 上原家政婦會
 會主 産婆 上原通子

おなじみの……
 カキ料理 エビ料理
 松茸料理 なべ類 其他色々
 相始めました、何卒御試食下さい
 平三警察署裏通り
 魚清食堂
 電話六三二番
 ◆出前やさん至急入用

半値の拂下米

農家救済の福音

大阪市の浸水保管米を

希望者は明日迄にとて

自家用米に窮して居る農家に耳よりな拂下米がある事平穀物検査所に昨夜入つた縣廳よりの電報によると大阪市内に於ける浸水保管米を内務省より拂下げ得べき見込みなので農家救済の爲め一俵六、七圓で郡民に縣が取次ぐ事となり是が希望者及び買入資金の有無に就て明日迄に回答せよと言ふ急電なので同所では今朝全員

最高點は

鈴木邦三郎氏

所得委員の各得票数

昨日執行された所得調査委員選舉は同日午後三時終了と同時に各町村役場に於て直ちに開票したがその結果左の如く最高點の榮譽は鈴木邦三郎氏の頭に輝いた

鈴木(邦)	一七二	〇	一
野崎	一二七	二	六
吉村	一一六	一	四
安島	四四六	二	六
加藤	一〇〇	〇	一
鈴木(喜)	七八	〇	二
大平	三七四	三	一
同 野崎	滿藏		
同 吉村	安治郎		
同 勿來	安島		
同 内郷	加藤		
同 高久	鈴木喜太郎		
同 勿來	大平陸四郎		
同 植田	四倉各警察		
同 豊田	三九		

勿來町の

當選祝賀

町長主催で

所得調査委員に大平陸四郎、安島久の兩氏を出した勿來町では昨日を以て選舉も終了したので同日午後五時から赤津町長主催で松岡屋旅館で祝賀懇親會を開いた

滿洲との

通話區域

けふから擴張

平局の國際電話滿洲國との通話は従來新京局のみであったのを本十一日より左記十二局との通話區域を擴張した

旅順	金洲	普蘭居	鞍
山	遼陽	撫順	關東
四平街	公首嶺	郭家居	
范家屯	吉林		

出張所の設置を

機會とし

擴張の下相談

石城産業組合部會は来る十六日午前九時より協議會を開き縣聯合會平出張所設置實現を機會として同出張所指導のもとに第一回の郡下各組合の事業擴張に就いて打合せを行つた

無料診療

郡下巡回日割

縣衛生課巡回診療班は左記日割により郡下の無料診療を行ふ

十九日	鹿島	二十日	箕輪
廿一日	永戸	廿二日	川前
廿四日	貝泊	廿五日	荷路
夫	廿六日	石住	

紅組優勝

メタル受賞育

既報する五日降雨の爲め競技半ばに中止した平第一小學校陸上運動會は昨日午前八時より再開午後一時無事終了賞品授與式を舉行了たが各學年に於けるメタル授賞兒童は左の如く尙紅白對抗は八百四十九点對六百四十九点で紅が勝、紅白リレ一は七分四十七秒でこれ又

滿洲事情の講演

今晚十三日會主催で開く

平町十三日會例會は今十一日午後七時よりマルトモホールに於て開かれるが警中第二十五回出身の滿洲國吉林省警務署指導官西山金雄氏の滿洲事情に關する講演がある

青年選手官舎 昨報 郡縣下体育大會出場の石城校に於て開かれる

兒童競技打合 来る二十一日警中グラウンドに於て開催される第三區市内外十三校兒童競技會の第二次委員會は来る十八日平第一校に於て開かれる

紅が勝つた

(二年) 佐々木健夫 小林智年 正木和夫(二年) 栗田孝一 中澤涉 近江幸次郎(三年) 吉田俊夫 山本弘 藤井貴一郎 新妻富美(四年) 田山弘平 大平繁雄 關原進(五年) 馬目久二男 若松俊彦 新妻喜太郎 齊藤義孝 志賀正一(高一) 田中忠太郎 増尾三郎(高二) 佐藤喜一 吉田喜造

軟式野球

大掃除で延期

既報する十四日開催する筈であつたマルトモ運動具店主催町内軟式野球戦は當日町内清掃日に當るので十七日に延期された

部會代表發表

濱三

郡教育總集會は来る十一月十一日相馬郡中村町に於て開催されるが平第二小學校訓導海野警男氏は石城部會を代表小學圖書の郷土的取扱の實際案と題する研究發表をする由

警部補考試合格 平署巡查五十嵐健雄君は去る二日執行された警部補考試第一次試験に受験合格したので来る十五日の本試験に臨む

共同販米明日

既報 平農業倉庫の共同販米は本日行ふ豫定であつたが入札米の締切後更に勿來、平等より多數申込みがあり二百十二俵に増加したので明日一日午後一時に延期された

出品木炭詮衡

濱三 郡木炭同業組合では来る二十四日から三日間若松市で開かれる會津木炭組合創設十週年記念品評會 石城、双葉各四點、相馬二點 宛を出品せしむべく目下詮衡中である

四倉繭市場

の昨十日の取引は總數四百六十貫八百八十匁、最高卅一圓、最低廿圓三十錢、馴二十七

夜間 診療

胃腸性病性

内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科

門 專

院醫科性病胃腸村松

(番七〇一電町南町平)

平町人事

圓七十錢にて前日の馴相場より七十錢安値を呈した

回出生 眞良さん

△白銀町九 阿形昇氏長男

平職界紹介所報告

回人を求める方

- △印刷工 二十五才以下 尋卒 給料面談
- △探炭夫 三十才以下 學力不問 日給一圓
- △土工夫 三十五才以下 學力不問 日給六十五錢
- △小商店員 十六才迄 高卒 仕着小遣
- △商店雜役 三十才以下 尋卒 給料面談
- △女中 十五才以上 尋卒 月五圓位
- △商店雜役 三十八才 無學
- △料理人 二十一才 尋卒
- △豆腐賣子 廿八才 尋卒
- △小商店員 十六才 尋卒
- △商店員 三十四才 乙種商業卒
- △女中 十八才 高卒

生々しい 苦惱の跡

拘留場の落書

コンクリート壁に改造
裏の社会の縮圖を消滅

先般兇暴な狂人が鐵格子を破つたのでその堅牢の程度が問題になりかけた

平署の 拘留場は五室

とも周囲の白壁が手の届くかぎり正に落書きのオン・パレードだ、便所の落書きは大抵猥褻なもの極つてゐるがこゝの世を呪ひ人を恨む呪詛と怨嗟の文字が

入亂れ 満ち溢れてゐる

これは拘留囚がこゝに過す幾時かの苦惱の跡を南京虫とのみとらみと蚊とに責めさいなまれながら光明に生爪で刻みつけた呻吟の跡だ、一見肌を粟立つて

新入り 拘留者に對し

は 覺ゆるこれらの文字の羅列

捌り口を爪の跡に托

することが出来なくなり裏の社会の縮圖ともいふべき落書きは永久に平署の一隅から抹殺されるわけだ

少女達の優しい 美學に感激して

郡山市の牧師から金一封

目頭が熱くなりましたとて少女達の善行を讃えた手紙と共に金一封を寄せられたが同校長始め發起人の少女達もこの未知の人の力強い援助に感動、一日も早く所期の目的を遂げ自分らの手に成る亡師の碑前でのことを報告すべく勇みつゝも準備を急いでゐる

郡山市虎丸カトリック教會牧師宮本政氏は亡師四家訓導の埋葬建碑の供養を營まんとする少女達の美學に感

じけふ第二小學校津田校長宛に金二圓に添えて少女達が思師の靈を慰めるといふことを紙上で拜見致したが實に應はしい行爲で讀みながら思はず

水引細工

木澤區長寄贈
平町研古區長木澤常松氏は本日第二校に教育の參考資料として水引細工熨斗標本十五種を寄贈した

古河主催 弓道大會

好間村古河炭礦弓道部は來る十四日午前十時より炭礦弓道に秋季大會を催す由に各炭礦弓道部及び一般愛好家の出場を希望して居る

ウシをまいて 自轉車を盗む

スピードで遊興代を踏み
植田署までノシた所を捕る

飯野村大字上高久片岡無職前科二犯大和田義光(三)は去る八日夜半町五色町榮樓に高橋文彌と偽名登樓して十圓分を遊興したがいざ勘定となるや財布を忘れて来たとして牛太郎を連れて歸宅の途次巧みに姿を晦し飯野村の吉田飯場から自轉車一臺を窃盜してそのまゝスピード逃走を企て十日夜植田町驛前徘徊中を平署の手配により逮捕された

平第二繼走 選手を決定

小學校体育部は來る十七日開催される磐女陸上運動會の郡下小學校児童百米及び四百米繼走に連勝すべく係訓練導員チの下に猛練習中であつたが本日左の如く選手を決定正午より講堂に於て推戴

今晩の部

- ▲後六、〇〇 齊唱と合唱
- (二) 高合唱團
- ▲後六、二五 英語講座(三)
- ▲後七、二〇 岡田哲藏
- ▲後七、三〇 講演「日蓮と日朗」勝田主計
- ▲後八、〇〇 東海道演藝道



明日のラジオ
今晩も明日も南
東の風曇後晴

- 中(第五夜) 解説村田嘉久
- ▲後九、〇〇 管絃樂 大阪放送交響樂團
- ▲後九、三〇 時報 ニュー
- ▲後九、三〇 氣象通報 番組豫告
- 明日の部
- ▲後六、三〇 基礎佛語講座

漫談の夕中止 平青年團主催「漫談とトキの夕」は十三日開催の筈であつたが肝心の大辻司郎が目下東京淺草金龍館でお名残り興行出演中のため來平出來ぬ事となつたので他に適任者を物色したが金語樓、すわらじ劇團等同種の催物が相續く爲め此回は中止する事となり來月改めて何らかの舉に出る筈

吉岡檢事歸廳

石住貝泊兩村に於ける賭博事件に關し植田署に檢舉された村議姪田千代三(五)氏外三十六名を取調べの爲め高木書記と共に植田署に出張中

草野角綿講習

草野村角綿講習會は本日より一週間同村役場で行れる

磐中四年演習

磐中四年生二百餘名は本日遠藤比佐兩教官指導の下に好間村上野原を中心に好間、内郷兩村にわかれ發火演習を行つた

夏井校運動會

夏井小學校では同村青年團と聯合して十五日秋季運動會を開く

女房の留守中に 世帯道具を賣拂ふ

それも他からの借受品
貸主がピツクリ平署へ
内郷村大字綴字町内荒木キヨ(三)さんは去る六月十日から茨城縣川尻町に出稼ぎ留守宅を家財とも月四圓で知り合ひの同村小池セキに貸したが九月八日歸宅

- ▲後六、〇〇 子供の時間 お話「人體めぐり」第七回
- 醫學博士 内村良二
- ▲後六、二五 基礎英語講座
- (二) 岡倉由三郎
- ▲後七、三〇 講演「世界經濟より見たる機械工業の將來」京大教授工學博士濱部源太郎
- ▲後八、〇〇 寄席中繼東京神田花月より
- ▲後九、〇〇 池上本門寺御會式實況東京池上本門より中繼
- ▲後九、五五 日本棋院秋季大手合戰績

裁判所たより

△盆踊りで雜沓中の平鎌田町遊廓で折柄警戒中の平署新撰組の猛者高松、菅家兩巡查を袋叩きにせんとした暴力團同町堀ノ内深谷小三郎(三)同弟末吉(三)同町坂本三郎(三)同弟五郎(三)の四名に對する公務執行妨害並に傷害事件の公判は九日午後一時より平區才判所に於て香西判事係り清田檢事立會千葉辯護士列席の下に開廷事實訊問の上檢事より懲役五ヶ月罰金三十圓深谷小三郎、同六ヶ月深谷末吉、同五ヶ月坂本五郎、同四ヶ月坂本三郎各求刑され後辯護士の減刑論あつて三時過ぎ閉廷した判決は來る十六日午前九時

浮名の花魁 遷新音頭

田邊南龍(作)
山本英春(書)

一五六

小紫の部屋

前を行つたり來たりしてをりましたが、ふと思ひ附いて裏手へ廻り、黒塀の上へ大きな松の木の枝が手を伸ばしたやうに出でゐる、之れ幸と權八ヒラリ其の枝く飛附き、塀の上へ上つたが、嚴重な忍び返しが付いてゐる、小刀を抜いてエイッといふ切拂ひ何なく庭へ飛下り、泉水を廻つて左に取つて行くと、雪隠の際に開き戸がある、手を掛けて見ると、締りを忘れたのかスーッと開いた、ソツと縁側へ上つて、元の通り戸を閉め、豫て案内したつたる小紫の部屋二階の廊下を廻つて來て見ると、中はシーンとしてゐる、若しや客でもありはしないかと暫らく様子を探つてゐる廊下をバタンと草履の音をさせて誰か來る様子に見答められてはならんと思ひ切つて障子を開けて中へ入ると、其處に番頭新造が假寐をしてゐたが風が襟許に當つたからふと目を覺まし、行燈にすかして見て

「オ、貴方は平井様」
「シッ……花魁は」
「貴方の事を苦に病んで、煩つておいで、ありんす」

その聲を聞き付けた小紫

「コレ竹川、何誰かお出でなしたか」
「花魁平井さんが」
「エ、ッ、平井さんが夢ではなつか」



と小紫は夜着から這ひ出し襦を開け
「ホンにお前は平井さん、能う來なました」
「花魁、懐しかつた」
と手を取合つて互に嬉し泣き
「アア花魁、平井さんも此

處では人に見答められてはなりません早よう奥の間へ……」
奥へ通して襦を締切り、濡てゐた着物を脱がし、箆筒から豫て權八の來た時に着せる衣類の用意もありましたから、夫れを取替へさせ
「御緩づくり」
と竹川は次の間へ退る
「花魁、苦勞を掛けたなア……」
「主さん妾ゆえに」
「イヤモウ夫れは云つて呉

も聞く事も出来ない先立つのは只涙ばかり、懸て權八が歸らうといふのを、小紫は怨めしさうに袂を押へて「折角來なましたのにモゾ直ぐお歸りといふのは、それは餘りではありんせぬかせめて二日か三日なりと」
「イヤ昔と違ひ、お尋ね者の權八、左様な長居を致せば、其方の身に及ぼす故、之にて立戻る明日にも自訴いたす權八懸て御處刑となつたと聞いたなら香華一本手向けて呉れ、夫れこそ千僧萬僧の供養にもまさるであらう」

「左様なお情ない事を仰しやいますな、せめて一日なりとお泊り遊ばして」
口には歸るといふが實は權八も別れ難い、夫れが爲めに二日三日此の小紫の部屋の内に隠れてをりました處が廊内では權八必ず吉原へ入り込むに違ひないなど出入りを嚴重にした。

市原醫院

平町 田町
電話一四四番

専門

産科
婦人科
花柳病科
科科科

◎入院隨意

井坂醫院

平町田町 電話五五五番

小學生用(長ズボン付)

- A.....90
- B.....1.10
- 特製品.....2.35

中學生用

- 特製6號.....3.50
- 御注文(特上).....6.30

ふかや洋服店 平電208

黒小倉通學服賣出

一望秋色

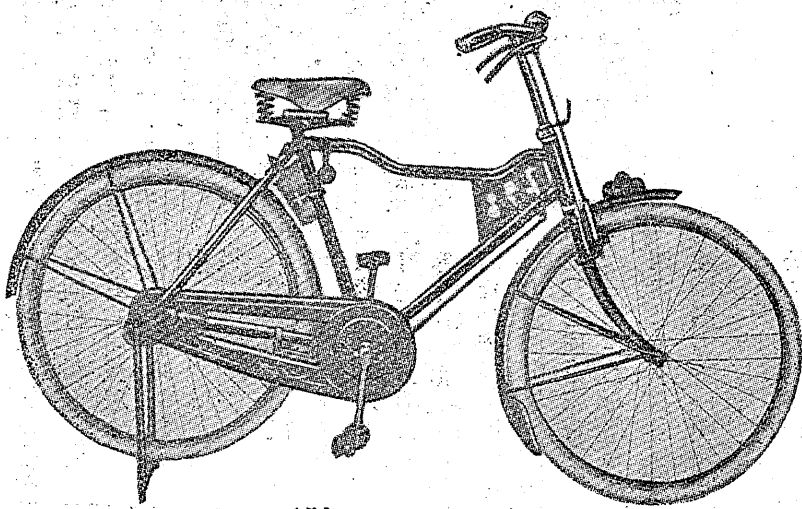
さあ御召替です
かかやには皆様の御満足の得る品が何時も澤山揃へて御座います



自轉車

景品付 月賦販賣

▼販賣方法 八ヶ月分割拂但し四回御拂込にれば現品御渡し致します(日掛歓迎)
▼締切 賣切れと同時に(各車一百臺)
▼景品抽籤 最終掛金領收後直に當替毎日新聞社々員立會の上舉行す
▼景品 一等より五等迄空籤なし
上等三重總桐タンス 上等茶籠筒
座蒲團五枚一組 南部鐵瓶 三越製御盆等々



[號 ツ ー マ]

特許マーツ號發賣記念

- ◎國產高級車 三 菱 號 金五拾貳圓也
- ◎經濟高級車 菊 菱 號 金五拾圓也
- ◎盜難豫防運搬 特許マーツ號 金五拾圓也
- ◎車代用頑固車 アーテンシー號 金四拾五圓也
- ◎高級實用車

發賣元東京合名 鹽野製作所
代理取扱店 平町 エビスヤ 自轉車店
電六六四番
△葉書又は電話にて御通知下されば直に御伺ひ致します尙不明の點は代理店へ御紹介下